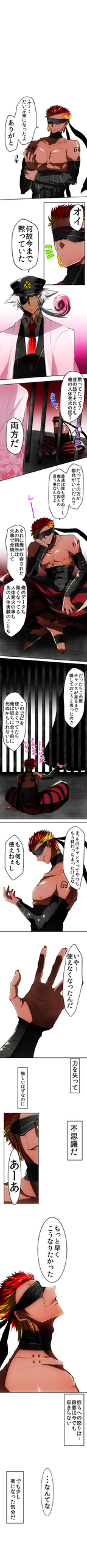
奴らを殺すことができるなら俺は喜んで死刑台に上ってやるよ

NANBAKA

第34話　煙の手

ちょっと待ってください
思ったんだけど
ちっとの間のことー無理かなーって
は？
意思疎通とか関係ない
俺の身体をいじくりまくってるんだろ？
俺もう一発ぶっ放すことができないんだよ
はあ!?
コロの医者と科学者が俺の身体をいじくりまくって人体実験をしてるんだろ？
そいつは俺の発火する能力を制御するための薬とかに使ってるらしい
実際試してみたらもう全然火が起こせねぇんだよ
なんだ原爆じゃねぇ
じゃ、ちょっとまってください
あ、あのもしもし？
あ、あのもしもし？
あ、あのもしもし？

呆れたな
あ？
つくづく中身のねえ奴だ
お前は
犬ちゃーん
これ外してくれねかなあ？
腕痛いし疲れた
馬鹿が
できるわけないだろ
全部従うよ
アンタに
それにこの俺の身体にはもう何も出来ないんだ
俺の脳につてはいってるきっと全部見通しなんだろ
ヘタなマネをすりゃどうなるかくらいわかるよ
さっきの言葉
忘れるなよ
ガチャ


ふー…だいぶ楽になったな。ありがと
オイ
何故今まで黙っていた
黙ってたってわ昔の俺の体を火の殺ろ
ぎゅっ
ぎゅっ
両方だ
だってその方が都合がいいだろ？
俺達は誰も信じねーし苦手なんだよ
だってそのうちの一人が俺の女房だったんだ
それに俺が収容されたあの日、俺の女房の体を発火の軍人達が実験の一つとして火事で全焼したし
だったらその時もう終わっちまったけどな
隠しておけばよかったのさ
ぎゅっ
ぎゅっ
この部屋だってもし俺はいらに会う前に死ぬかもしれないし
俺のアジトなんて無くなってても俺はいらに会う前に死ぬかもしれないし
まぁ、そのキャンプってやつももう終わっちまったけどな
もう何も使えねぇし
いや…使えなくなったんだ
力を失って
悔しいはずなのに…
あーあ
不思議だ
もっと早くこうなりたかった
奴らへの怒りは…殺意で今でも収まらない
…なんでな
でも少し楽になった気分だ

『何で今まで言わなかった』

誰も信じてはいないからだ

何か隠しているような表情を感じた。

そして警視庁では何も掴めない。ということも。

だから私は自ら捜査に出る様々な捜査情報を集めに現場へ

私は徹底的に調べげるつもりだ。

そしてその証拠になるのだから

調べ上げるぞ。ねえ隠分仕事熱心なんだな

そんなに成果を出したいのかい？

勘違いするな

私は悪いことをしている奴が許せないだけだ。

まったく凶悪な奴ってのは人生実験のしがいがあるってもんだ。人の道を外れしてやがる……

私は私のやり方でその実態を暴いてみせる

ベッ

これは私の『正義』の為だ

ずいぶん熱いねぇ

俺よりやる気があるんじゃねぇの？

カッ

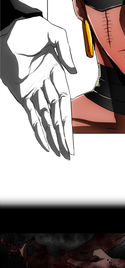
今ではお前よりあるだろうな

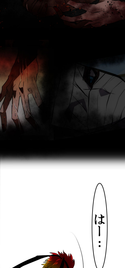
私の『正義』はお前の『殺意』よりも重いぞ

ちっ、かないねぇ！
犬ちゃんがどんな面してるかわかんよ

これじゃあ城なんて
ろくなとこ
とってつけないな
だがその中に
少しの
あるのなら
の可能性が
ほ
ん
の
ち
ょ
っ
と
の
可
能
性
が
好きなんだけど話せばいいが
私はその可能性に
全てを賭けたって
いいと思っている

私が真実を
見つけてやる
必ず


真実



は・・・
ずーっと
思ってたことがある
ことに
嘘吸き
なってやる
見つけられないものを
見つけられないものを
見つけたければ
見つけられないものをのキャ
アンタが
見つけられないものをのキャ

これ以上手は
お手つてい
なるんだ
な!?
ジョーダンだ
気にするな
ちょっと待て
ちょっと待て
ちょっと待て